

I. 「国立大学附属病院の今後のあるべき姿を求めて」

—看護部編— 概要

1. 看護実践
2. 教育
3. 研究
4. 地域貢献・社会貢献
5. 国際化
6. 運営

看護実践分野のミッションと現状

国立大学附属病院のミッション【診療】

- 日本と世界の医療イノベーションを牽引
- 日本の優れた医療を世界に発信
- 高度で質が高く、安全な医療の提供
- 科学的・客観的な診療評価の実施と公表



看護部のミッション【看護実践】

- 新たな看護実践の創造、発信、牽引
- チーム医療における倫理的実践の強化
- 高度で質が高く、安心・安全な看護の提供
- 科学的・客観的な看護実践評価の実施と公表

現状

1. 臨床と教育・研究のユニフィケーションが不十分である
2. 看護実践に係る豊富なデータを活用して看護の質を向上させるために、看護記録の標準化が求められている
3. 高度で先進的な医療における看護実践の標準化が求められている
4. 医療技術の進歩、在院日数の短縮により、在宅でも専門性の高いケアを継続して提供することが求められている
5. 日本の優れた看護の実践やイノベーションの海外への発信が不十分である
6. 最先端医療を担うチーム医療のキーパーソンとして、看護職にはより主体的な倫理的実践が求められている
7. 看護師の裁量や専門的判断が日々の看護実践に十分活かされていない
8. ジェネラリストの看護実践が十分評価されていない
9. 看護実践の基準・手順の作成、更新が大学病院ごとに行われている
10. 国立大学病院として看護実践を評価するアウトカム指標の開発・収集が求められている



課題

1. 教育・研究と臨床との往來の推進、および、教員と技術職員の給与格差の是正
2. 国立大学病院看護実践研究開発センター（仮称）の設置、ならびに、看護用語・看護記録の標準化とデータの共有化の推進
3. 高度で先進的な医療を担う看護職の共通の教育プログラムの確立と、各大学の強みに応じた教育の分担
4. 大学病院で勤務するスペシャリストの知識・技術を地域医療に提供するための仕組み作り
5. 日本の優れた看護実践の海外への発信
6. チーム医療のキーパーソンとしての看護職による主体的な倫理的実践の強化
7. 看護師の裁量がより発揮され、専門的判断が伴われた看護実践の推進
8. 卓越したジェネラリストの活用
9. 高度で先進的な医療を安心・安全に提供することができ、国際的にも通用する看護実践の基準・手順の整備
10. 看護のアウトカム指標の開発、および、データの蓄積

看護実践分野の将来像（提言）

提言1. 看護の質の明確化

- ① 看護用語・看護記録の標準化
- ② 最新のエビデンスに基づき、国際的にも通用する看護実践の基準・手順の標準化
- ③ 看護実践データベースの構築
- ④ 看護のアウトカム指標の開発

提言2. 医療の進歩・ 社会情勢の 変化に対応した 看護の提供

- ① 高度で先進的な医療に係る看護実践の標準化と教育プログラムの開発
- ② 看護師の裁量をより発揮した看護実践の推進
- ③ 倫理的実践の強化
- ④ ジェネラリストのクリニカルラダーの標準化
- ⑤ 米国のCNLに相当するような卓越したジェネラリストの認証制度の導入
- ⑥ 医療の進歩に対応したスペシャリストの専門的機能の一層の強化
- ⑦ スペシャリストの知識・技術を地域医療に提供するシステムの構築
- ⑧ 優れた看護実践の海外への発信

提言3. 情報共有と 相互評価

- ① 国立大学間ネットワークの再構築
- ② 提言を実現するための相互評価システムの確立
- ③ 看護の質指標の公表と活用

教育分野のミッションと現状

国立大学附属病院のミッション【教育】

- 日本の臨床教育の進歩を牽引
- 日本の将来を展望した医療人材の育成
- 臨床医のリサーチマインドの涵養
- 多様なキャリアデザインの構築と推進



看護部のミッション【教育】

- 看護基礎教育と継続教育との一貫性をもった教育体制の確立
- 最先端医療を担う実践力に優れた看護職の育成
- 多様なキャリアデザインの構築と推進

現状

1. 臨床で求められる能力と看護基礎教育で習得できる能力のギャップがある
2. 新人看護職員への支援に多くの時間・人手が必要となっている
3. 進歩し続ける高度な医療を担うジェネラリストを育成し続けている
4. 最先端医療を担うチーム医療の中で、看護職の専門性が期待されている
5. キャリア支援システムを構築しつつあるが十分ではない



課題

1. 看護基礎教育と継続教育の連携強化
2. 看護職の教育力の強化の推進
3. チーム医療を推進できる看護職の育成
4. 倫理的諸問題への感受性を高め、問題に対処できる看護職の育成
5. 看護職のキャリア支援の強化

教育分野の将来像（提言）

提言1.
看護基礎教育と
継続教育の
連携・強化

- ① 平成21年度大学改革推進事業「看護職の人材養成システムの確立」を参考にしたユニフィケーションの推進
- ② 継続教育プログラムの開発と評価

提言2.
卓越した
ジェネラリストの
育成

卓越したジェネラリストの教育プログラムの開発

- ① ケアのマネジメント
（地域連携・倫理調整力含む）
- ② リサーチマインド
- ③ 現場の実践者の教育
- ④ スペシャリスト等の活用
- ⑤ チーム医療のコーディネート
（人間関係調整力含む）

提言3.
看護職および
多職種
キャリア支援の強化

- ① 多職種を含めたキャリア支援を行うための体制強化
- ② 平成21年度大学改革推進事業「看護職の人材養成システムの確立」を参考にしたキャリア支援の強化
- ③ 地域貢献・国際化を見据えた人材育成

研究分野のミッションと現状

国立大学附属病院のミッション【研究】

- 日本と世界の次世代医療開発を牽引
- 基盤部門の整備と充実
- 開発のためのネットワーク形成と役割分担
- 研究マインド向上のためのシステム構築



看護部のミッション【研究】

- 看護の質を向上するための研究の推進
- 研究成果を活用し、国民の健康維持・増進に寄与
- エビデンスを蓄積し、新しい看護の創出

現状

1. 臨床実践の場で研究を行うための環境の整備が不十分である
2. 大学院で研究を経験した看護職が増えている
3. 共同研究者が確保しやすい環境にあり、研究の連携推進がしやすい
4. 研究成果の実践への活用が求められている



課題

1. 研究マインド向上のためのシステム確立
2. 研究環境の基盤整備
3. 共同研究の推進
4. 研究ネットワークの構築
5. 研究成果の実践への活用推進
6. エビデンスを基に開発研究を推進

研究分野の将来像（提言）

提言1.
研究環境の
基盤整備

- ① 研究指導・支援体制の整備
- ② 研究時間の確保・研究費の獲得
- ③ 研究マインドの向上

提言2.
研究ネットワークの
構築

- ① 看護系教員等との連携
- ② 他職種・他施設との共同研究の推進
- ③ 研究成果のフィードバック

提言3.
研究成果の
発信と活用

- ① エビデンスを活発に用いる体制作り
- ② 看護の可視化
- ③ 研究成果の発信による地域貢献・社会貢献

地域貢献・社会貢献分野のミッションと現状

国立大学附属病院のミッション【地域貢献・社会貢献】

- 地域医療のハブ機関として医師を供給
- 研究開発・事業化を通じた地域の活性化
- 長期的視野から地域医療の再構築支援
- シームレスな地域医療ネットワークの構築



看護部のミッション【地域貢献・社会貢献】

- 地域における看護の質向上
- 地域医療を支える看護職の資質の向上
- 地域医療ネットワークの構築によるシームレスな医療（看護）・介護の提供
- 災害医療ネットワーク体制の構築

現状

1. 超高齢社会到来による医療ニーズの変化への対策が求められている
2. 地域医療の格差があり、地域貢献のための人材の有効活用が求められている
3. 地域医療における連携やネットワーク化を推進する必要がある
4. 地域医療提供体制への看護の関与が求められている
5. 大学病院から地域に研修の講師派遣や地域の看護職の研修受け入れができていない
6. 最後の砦として地域の重症患者や難病患者の受け入れを担っている
7. 地域の看護職不足に対応するため、大学病院と地域の病院が連携した看護職の育成と派遣に対する、体制の構築が必要である
8. 災害時の地域とのネットワークが不十分であるため、大学病院の役割分担を明確にしていく必要がある



課題

1. 地域医療ネットワークの構築とシームレスな医療（看護）・介護の提供
2. 地域のニーズを踏まえて地域で医療を支える看護職の育成
3. 地域医療や災害医療に関する看護の積極的参画

地域貢献・社会貢献分野の将来像（提言）

提言1.
シームレスな医療
（看護）・介護の
提供体制構築への
積極的参画

- ① 地域医療（看護）・介護の連携体制の構築
- ② 看護データ活用のためのシステム構築
- ③ 人的リソース活用推進

提言2.
地域医療を支える
看護職育成のための
体制整備

- ① 看護職育成のための体制の構築
- ② 看護職育成のための教育プログラムの開発と実践
- ③ 地域との人事交流の推進

提言3.
地域の危機管理への
積極的参画

- ① 医療安全・感染対策に対するチームの一員としての活動推進
- ② 「災害に強い大学病院」の基盤づくりへの積極的参画

国際化分野のミッションと現状

国立大学附属病院のミッション【国際化】

- 国際競争力の獲得
- 国際医療人材の育成
- 国際的なリーダーシップの発揮
- 我が国の優れた医療を世界に発信



看護部のミッション【国際化】

- 国際医療人材の育成と活用
- 海外の看護職との交流
- 我が国の優れた看護を世界に発信

現状

1. 外国人患者への対応が求められている
2. 基礎教育で国際看護を学び災害医療や発展途上国の看護支援に興味を持つ看護職が増えている
3. 外国の多様な文化や価値観に触れる機会の拡充が求められる
4. 海外の看護に触れたり、海外の看護職と交流することが求められる
5. 日本の看護の素晴らしさを世界へ発信するための萌芽期である
6. 国際化社会に対応できる語学力の向上および人材活用のしくみが求められている



課題

1. グローバル社会における外国人患者への対応強化
2. 海外の大学との協定を活用した交流体制の整備
3. 海外研修や視察を盛んにするためのネットワーク構築
4. 日本の看護を発信するために国際学会へ参加
5. 語学研修体制の整備

国際化分野の将来像（提言）

提言 1.
海外との交流体制の
整備

- ① 留学生・研修生の交流体制の整備
- ② 海外協定大学との連携への積極的参画
- ③ 多様な文化や価値観の相互理解

提言 2.
国際化を進める
人材育成

- ① 語学研修等の計画的実施
- ② 海外留学制度の整備
- ③ 海外の看護や多様な文化の体験

提言 3.
日本の看護の
世界への発信

- ① 国内外での日本らしい看護の実践
- ② 災害医療(看護)や発展途上国の看護支援
- ③ 国際学会への参加

運営分野のミッションと現状

国立大学附属病院の運営上の目標

- 長期的視点に立った経営計画の策定
- 独自性ある病院マネジメントの確立
- 国立大学附属病院システムの構築
- 優れた人材確保の人事労務戦略の確立



看護部のミッション【運営】

- 各分野のミッションの達成
- 国民の医療を守るための体制づくり
- 連携やネットワークの促進
- 働き続けられる体制の強化
- 経営基盤やシステムの強化

現状

1. 国立大学病院が使命を果たし続けるための人材確保が必要である
2. 看護職がキャリアを重ねながら健康に働き続けられる環境を整える必要がある
3. 看護職の役割に応じた処遇を整える必要がある
4. 専門職としての裁量をより発揮できる環境が必要である
5. 看護職のさらなる役割拡大に伴い、相対的医行為の拡大が求められている
6. 看護部の情報量・機動力・組織力の発揮を期待されている
7. 看護の視点・倫理観などをあらゆる段階の意思決定に反映することが期待されている
8. 臨床と教育・研究の一層の連携が期待される
9. 学外とのネットワークを積極的に構築・活用していく必要がある
10. 国立大学病院の看護が担う役割や活動、成果について社会へ広報・説明していく必要がある



課題

1. 国立大学病院としての機能を果たすために必要な人材確保・育成
2. 看護職が最大限に専門性を発揮できる体制の構築
3. 臨床と教育・研究のユニフィケーションを進める体制の構築
4. 多様なネットワークの構築・推進
5. 国立大学病院における看護の活動・成果の発信

運営分野の将来像（提言）

提言1.
国立大学病院としての
使命を果たすために必
要な人材の確保・育成

- ① 必要な人員・ポストの確保
- ② 非承継職員の処遇改善
- ③ 働き続けられる環境づくり
- ④ 新人研修を円滑に実施する体制・環境づくり

提言2.
看護職が最大限に
専門性を発揮できる
体制の構築

- ① チーム医療のキーパーソンとして看護職の裁量を最大限に発揮する仕組みづくり
- ② 組織の意思決定への積極的な参画

提言3.
臨床と教育・研究の
ユニフィケーションを
進める体制の構築

- ① 院内に連携センター及び看護部と学部・学科を併任するポジションの設置
- ② 看護部と学部・学科間の人事交流を推進する仕組みづくり
- ③ 臨床と教育・研究との連携強化

提言4.
多様なネットワークの
構築・推進

- ① 国立大学病院の拠点整備とネットワークの強化
- ② 地域や海外との連携の推進
- ③ 産学連携の推進
- ④ 諸団体とのネットワークの構築・活用

提言5.
国立大学病院における
看護の活動・成果
の発信

- ① 各病院からの積極的な発信
- ② 組織・ネットワークからの発信強化
- ③ 海外への発信